

55歳のつぶやき

在京飯田高校同窓会の幹事学年は55歳。社会人になつたころ、55歳は定年を迎える年だった。今の時代、まだ世の中を引っ張つていかなくてはいけない世代の同窓生たちは、どんなことを考えているのだろう。

高36回生 10人から

■これから故郷への恩返し

大学を卒業し、そのまま企業等の研修会社に就職して34年になる。今は研修だけでなく、個別カウンセリングやキャリアコンサルタントとしての活動も増え、土日も面接や後進指導に追われる毎日はある。20代の頃は仕事後に遊ぶことしか考えてこなかった自分が、こんなに仕事好きになるとは思わなかつた。特にキャリアの仕事を通じて、生きがいとして働くことの意味を考えるようになつたし、また実感している。

この仕事はいわゆる定年がない。自分が出来るところまでやつていけばいいと思うが、ただ、子どもたちが巣立つてからは仕事の価値や意味をもう一度問い合わせでなく、個別カウンセリングやキャリアコンサルタントとしての活動も増え、土日も面接や後進指導に追われる毎日はある。20代の頃は仕事後に遊ぶことしか考えてこなかった自分が、こんなに仕事好きになるとは思わなかつた。特にキャリアの仕事を通じて、生きがいとして働くことの意味を考えるようになつたし、また実感している。

●北澤清孝

豊丘村出身

企業研修及びカウンセリング会社 経営

■想定外の今。そしてこれから

重く厚い学生カバンを下げ、長い坂の続く道を歩いて通学していた頃の私は、今の未来を全く想像していなかつた。むしろ真逆の今である。なにせ当時の私は、大学卒業後、3年働いて結婚退職。毎日子どものおやつを作りするやさしい母親になるという未来を思い描いていたのだから(この発想については、まったく自分を見誤っていたと思わざるを得ない…汗)。

果たして大学卒業後、総合職として大手企業に就職し3年後に結婚。ここまで想定通りの道を歩んだのだが、働くことに目覚めた私は、独立できる仕事をと模索して転職。編集者の道を選んだ。子育てをしながらも仕事を続け、今年で30年。小さな編集プロダクションを経営しながら、なおも本を編み続けている。そして、今、思い描く未来は「死ぬまで現役」。70歳、80歳にしか作れない本を編むのが夢だ。

●大嶋(旧姓・茂木立)みどり 飯田市松尾出身 編集者

■利己から利他へ

55歳のつぶやき

ルティング、コンテンツ制作の仕事をしていまますが、働く目的はちょっとずつ変わつ

てきました。自分のため、家族・会社など

が、高校時代とそれほど変わっていないこ

とに驚きます。民間企業で18年、NPO

で10年、非営利活動を続けながら起業して5年。現在、がんを中心とする医療コンサ

ためにはじめて働いてきたように思います。ちょうど

■盆栽・料理・献血の次は?

今から10年前、人生の折返し点を意識して始めたことが3つあります。その1つが盆栽です。海外で生活した時に、私には深く語れる日本文化の知識が無いと気づき、いつの日かきちんと日本文化に向き合いました。男性の趣味というイメージがある盆栽ですが、生徒の9割超は30代から60代の活動的な女性でした。盆栽は剪定や針金掛けなどで自分の感じる風景を鉢の上に作り上げてきます。私は盆栽を通して伊那谷の風景を広めたいと思つています。

次に食卓を豊かなものにするためにと習い始めたのが料理です。料理の腕が上がつたとは言い難いのですが、レパートリーは広がりました。

そして第3に誰かのために役立つことをと思い、始めたのが400mlの献血です。自らの健康を維持して制限年齢の69才まで続けていければと思っています。

さて、55歳からは何を始めましょうか。

●井澤(旧姓・林)美智子

松川町出身 消費生活相談員

■Ambitious (志・野心)

その昔、クラーク博士は言った、Boys, Be Ambitious!

好きな言葉である。自社には5つの行動指針があり、その1つがAmbitiousである。

志は公益の意味合いがあり、野心は個人的なものと理解するが、英語ではどちらも同じ。

「野心を持つこととキャリアの成功には相関がある」とのアメリカの経済学者の記事を読み、そうだよねと腹落ちした今日この頃。

高校生の頃、あの自然豊かな故郷で、高松の坂をわずかなAmbitiousを持ちながら登つていた、と驪気ながら覚えている。

高校生の頃、あの自然豊かな故郷で、高松の坂をわずかなAmbitiousを持ちながら登つていた、と驪気ながら覚えていた。はたして、我が息子は持てているだろうか、会社の後輩たちはどうだろう?いや、人生80年の今、もう一度高松の坂を上り、あの頃のAmbitiousを胸に刻もう! ンスを考えていくこうと思っています。

●柳澤昭浩 高陵中出身 (三重県鈴鹿市生まれ)

合同会社代表社員

■まだ見ぬ肩書

メンタル不全に陥る同僚が多かつたこと、自分も仕事をと育児の両立で悩んだこともあります。産業カウンセラーとキャリアコンサルタントの資格を取得し、心の健康づくりのお手伝いをしています。

メンタルヘルスやキャリアの世界で「肩書」という言葉によく会います。それはいい意味でも悪い意味でも使われます。固執し過ぎると口クなことはないです。

たぶん皆さんも同じだと思いますが、私も生まれてからたくさんの「肩書」を持ちました。それは、自分で選べるものもあれば、選べないものもあります。長女、学生、会社員、英語講師、妻、母など…。途中、隊員という変わり種もありました(笑)。

さて、これから10年、20年後の私はどのような「肩書」を持つているのでしょうか? 返上する「肩書」も出てくるでしょう。楽しみであり、不安でもあります。それでも新しく与えられる「肩書」に、潔く、前向きに臨みたいなあと心の中でつぶやく55歳です。

●高津(旧姓・木下)正子 飯田市諫訪町出身
産業カウンセラー・子ども英語講師

■これからわたしは

高校を卒業してから、東京→秋田→東京と移動し、今は東京での生活が一番長くなっています。自分で選んで進んできただつもりでしたが、想定外のことが多かつたような気がします。

■人生のストレスケアは自然体で楽しむ

秋田での11年間の生活は全く知らない雪国の生活でした。が、周りの人助けられ、貴重な体験ができた大切な思い出となっています。地方での暮らしから東京への生活は、子どもの学校生活など不安なこともあります。そこで多くの新しい出会いがありました。

20代、30代、40代はあつという間にすぎましたが、ここ数年の私は更年期のせい?なのか迷うことも多く、すつきりしないもやもやしていることがあります。

子育ても一段落した今、薬局薬剤師として働く自分はこれまで見えてきませんが、30数年ぶりの飯田高校同級生との再会もあり、今後の人生にまた期待したいと思うこの頃です。

今年は、昨年からの「コロナ禍」は、外出制限や休職、リモートワークを迫られ、人との直接的な交流が遮断されました。感染予防とはいえ、深刻な社会的ストレスとなっています。このような時、皆さんはどんなリラックスやリフレッシュの時間を工夫されています。

我が家では、晴れた休日にはコーヒーを魔法瓶に入れて、近場の緑の中でピクニック。雨の日は…どちらと寝ています(笑)。我が家では、晴れた休日にはコーヒーを魔法瓶に入れて、近場の緑の中でピクニック。雨の日は…どちらと寝ています(笑)。

■2021年の今、思うこと

飯沼は諏訪神社の約300段の階段を毎日3往復していた高校時代、心持ちは今も昔と変わりなし? しかし鏡に映る

自分は間違いなく年齢なりのおじさん。上京後は光陰矢の如しで37年、人生10年時代と言わればまだ序の口ですが、子ども2人も成人し、企業人としての生활は間違いなく終盤。自分の来し方と着地点を否応なく考えさせられる昨今です。

■卓球でつながる人生の輪!

昔取った杵柄というほど大きなものではないが、卓球を続けている。高校時代、朝に土日に練習に明け暮れ完全燃焼したはずが、大学でも一般サークルではなく体同連(体育同好会連合会)の卓球部に自然足が向き、覗いてしまった私は、卓球のみならず彼等との大学生生活にすっかりハマってしまった。その部の伝統で2年おきに女子校にコーチを派遣しており、運良く? コーチに推されて…。そのOGと大学の後輩有志で卓球チームを作り現在に至る。袖触れ合うも云々と言うが、知人友人を超えてどっぷりその仲間と一緒に練習を楽しんでいる。

50歳を越えた頃に卓球部の創部50周年記念式典の話が持ち上がり、紅余曲折を経て代表幹事となつた。私が生まれた年に入部された先輩の住所確認に始まり、何人集まるか想像すらできない中での会場手配、時間予算演目等々、丸一年、土日のほとんどを使い、後輩と3人で企画した、大掛かりな4時間にも及ぶ式典が出来上がる。「ニッタクニュース」という専門誌の取材を当日受け、その雑誌に掲載されたのはサプライズ。創成期から現役まで50世代230余名が集まり、最初で最後の感動あふれる大式典であった。

あと数年で定年。折り返しに突入したそのあとの世界もまた楽しみでしようがない!

●下沢聰夫 豊丘村出身 建築資材流通会社勤務